

前期主題 「信じて一歩、未来へ進む。」(マタイによる福音書 6 章 31 節～ 34 節)
“Believe - and step into the future.” (Matthew 6 : 31-34)

主題聖句 31 だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。32 それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。33 何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。34 だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である。

編集 広島女学院大学宗教委員会 〒732-0063 広島市東区牛田東 4-13-1 TEL (082) 228-0386
http://www.hju.ac.jp/ E-mail:hjucac@gaines.hju.ac.jp

立ち止まる時間と育つタラント

学長 渡部 佳美

立ち止まる時間が教えてくれること

私たちは、日々、多くの情報や視覚的な刺激に囲まれています。ふと静寂が訪れた時に、それを埋めるように、スマートフォンの画面を眺め、情報を得ようとしてしまうことはないでしょうか。私自身、隙間時間が生まれたとき、不安に駆られることがあります。その不安は、その時間が鏡のように、今の自分の不安や弱さをありのままに映し出してしまうからかもしれません。もちろん、皆さんの感じ方はそれぞれ異なると思います。どのような感じ方であれ、自分を立ち止ませる時間には共通の価値があります。それは、外からの刺激を遮断することで、自分の内側にある声に触れられるということです。心の中の不安や希望、期待など、それらに気づくためには、一度立ち止まる時間が必要です。過去は変えられませんし、未来を憂いても始まらない。今、この瞬間をどう歩むかを考え進むことだけなのだ、と自分自身との対話が教えてくれると感じています。

「タラントのたとえ」から気づくこと

聖書を開いてみると、偶然にも今の自分の気持ちを問う言葉を見つけるときがあります。皆さんは、新約聖書『マタイによる福音書』25 章 14 節から記された「タラントのたとえ」をご存知でしょうか。

ある主人が旅に出る際、三人の僕(しもべ)を呼び、それぞれの能力に応じて財産を預けました。一人には五タラント、一人には二タラント、もう一人には一タラントです。五タラントと二タラントを預かった者は、すぐに出て行ってそれを活用し、さらに倍にしました。しかし、一タラントを預かった者は、主人が帰ってくるまで、その金を地の中に隠してしまっただけです。

後日、戻ってきた主人は、活用した二人を「良い忠実な僕だ」と心から褒め称えましたが、隠しておいた者に対しては厳しく叱責しました。

この「タラント」という言葉は、現代の「タレント(才能)」の語源です。ここで問われているのは、他者と比較した能力の差ではありません。自分という存在に与えられた資質をいかに使い、役立てていくかという生き方の姿勢にあります。一タラントを地の中に隠してしまっただけの僕は、未来への不安から、今の歩みを止めてしまったこととなります。過去や未来に囚われることなく、「今、こ

こにある自分」を肯定的に受け入れるために自分に向き合う時間を持つことも大切です。

大学は安心してチャレンジできる場所

先日、本学の教職勉強会に参加した一人の卒業生が研究室を訪ねてくれました。彼女が広島女学院大学に入学した理由を語ってくれたとき、私はこの「タラントのたとえ」を思い出しました。オープンキャンパスでの体験を通して、「頑張るのは自分だから、それを一番支援してくれる大学だと思った」と言っていました。

「タラントのたとえ」において、主人は僕たちに財産を預けた後、その運用方法について細かな指示を与えませんでした。これは、預けられたタラントをどのように活かし、どのように増やすかという主体的な判断が、僕たち一人ひとりに委ねられていることを意味します。

つまり、人生の舵を握るのは、他の誰でもない自分自身です。学び、悩み、壁にぶつかり、それを乗り越えていく主体は常に自分です。しかし、決して一人で立ち尽くすことはなく、大学は頑張りたいという思いを支え続ける場所ですので、安心してチャレンジしてください。

ここで皆さんに伝えたいのは、大学での学びを、心から楽しんでほしいということです。学びとは、知らなかった世界を知り、昨日まで見えていなかった景色が見えるようになる喜びの体験です。未知のものに触れてワクワクすること、新しい自分を発見することの楽しさを、大学生活で存分に味わってください。その楽しみこそが、あなたの中にあるタラントをさらに豊かに育てることになります。たとえ心の中に不安があっても、思うようにいかない日があったとしても、自分と向き合うために立ち止まる時間を大切に、勇気をもって自分なりの一歩を踏み出していきましょう。

聖書において、地の中に隠されたタラントは、失われはしませんでした。一方で、変化もありませんでした。一方で、迷いながらもそれを生かした者たちは、自らの資質を用いることで、結果として自分自身の人生をより豊かなものへと変えていきました。

今、この場所にある時間を、どうぞ自分のために味わってください。ここから、あなたなりの歩みが穏やかに始まっていくことを願っています。

前期宗教強調週間

プログラム

5月18日(月)～22日(金)は、前期宗教強調週間です。

* 5月19日(火) 「キリスト教の時間」 13:00～13:45(ゲーンズチャペル)

『死すからこそ』ヨハネの手紙一 3章16節

在宅ホスピス研究所パリアン代表・森の診療所医師 川越 厚 先生

* 5月20日(水) 特別講演会 13:00～14:30(砂本記念講堂)

『生存被爆者のスピリチュアルペイン』マルコによる福音書 14章 32～38節

在宅ホスピス研究所パリアン代表・森の診療所医師 川越 厚 先生

★講師を囲む懇談会 14:45～15:45(ゲーンズチャペルロビー)

* 5月21日(木) 「木曜日チャペル」 12:30～12:50(ゲーンズチャペル)

【学生活動報告】日本文化学科「赤い鳥カフェ」

◆学内献血 6月1日(月) 受付 12:30～16:30(ヒノハラホール前)

特別講演会講師

医学在宅ホスピス研究所パリアン代表
森の診療所医師

かわ ごえ こう
川越 厚 先生



講師紹介

川越 厚さん(在宅ホスピス研究所パリアン代表・森の診療所医師)

学生への メッセージ

わたしたちは、誰もが一度『誕生と死』の門を通ります。
第一日目は『ひとの誕生』について、二日目は『ひとの死』について
お話ししたいと思います。
どちらも若い皆様にとって、これからの大切なできごとです。
二日間、しっかり『生と死』について一緒に考えましょう。

2026年度 第26回 8.6平和学習プログラム参加者募集中です

今年で第26回目を迎えます「8.6平和学習プログラム」の参加者を募集しています。このプログラムは、本学学生と宗教委員会が他大学に参加を呼びかけて、ともにこの被爆地ヒロシマを舞台に平和の問題を考える集いです。

8月4日(火)から6日(木)まで3日間のプログラムで実施し、平和記念公園にて資料館見学・碑めぐり、また、講義を受け、広島女学院平和祈念式に出席、意見交換などを行います。

企画から実施まで、このプログラム全般にわたって活動する参加者を募集しています。(ハンドブックのPI4もご参照ください)

問い合わせ・申し込みは、宗教センターまで。

Tel: 082-228-0415 E-mail: hjuccac@gaines.hju.ac.jp



*詳細が決まり次第、ポータル等を通じて
連絡しますのでご確認ください。

キリスト教に基づくエッセイ 59

チーム医療の活動を通して 「祈り」について考える

管理栄養学科 専任講師 吉廻 悠

私は広島女学院大学を卒業後、病院に入職し、管理栄養士として働いてきた。病院で働く管理栄養士は、食事や栄養を通して治療を支えている。患者さんの栄養状態が改善したとき、笑顔で退院されるとき、とてもやりがいを感じられる。けれど、治療の副作用や病状が進むことで思うように食べられなくなる方も多く、教科書どおりの対応が通用しない場面に何度も出会った。

特に忘れられないのは、ある進行性の神経疾患で入院していた女性との出会いである。今の私と同じ、三十代で、小さなお子さんがいる方だった。疾患の影響で好きなものを好きなように食べられず、身体も思うように動かさない。胃瘻を作り、ごく少量の嚥下食を口から摂取してもらっていた。彼女は医療者の前ではほとんど弱音を吐かず、残された時間を、前向きに病気に向き合っているように見えていた。私は、主治医や看護師と連携を取り、少しでも彼女が食べやすいような食品や、好きだと聞いた料理を取り入れながら、毎日のように病室に通った。

ある日、ご家族が席を外しているタイミングで、彼女がぼつりと「子どもの成長を、一秒でも長く、見たい。でも、この身体は、もうつらい。」と目に涙を浮かべて話してくれた。その声は弱々しく、これまで気丈に振舞っていた彼女の本心であると感じた。私は言葉に詰まって、うまく返すことができなかった。管理栄養士として、疾患と栄養の知識をもって話せることはたくさんある。でも、今は何を言っても、彼女をさらに疲れさせてしまうと思った。私は、寝たきりの彼女の腕をさすりながら、どうか彼女が、少しでも幸せな時間を過ごせますようにと祈ることしかできなかった。

私は、個人的に特定の宗教を信仰しているわけではない。それでも、臨床の現場では、自然と祈るような

気持ちになることが何度もあった。痛みが少しでも和らぎますように。食欲が回復しますように。家族と笑い合える時間が、明日も続きますように。ただ、目の前の一人の人生があまりにも大切に思え、できることはまだないかと、もがいたことが何度もあった。教科書どおりにいかず、上司や先輩を頼り工夫を凝らしてみても、栄養状態がなかなか改善せず、やるせない気持ちになることも多々あった。私ではなく、もっと経験や知識のある人が担当だったらうまくいくのではないかと悩むこともあった。そんな時、昔どこかで聞いた「人事を尽くして天命を待つ」という言葉が思い出された。管理栄養士として、今の自分にできることをすべてやる。栄養評価をし、献立の工夫をし、思いを傾聴し、心から寄り添う。そして、人として、専門職としてできることをやり尽くした先にある、相手のためにできる最後のことは、祈りなのだと思います。

大学で学生と話す時、しばしば「患者さんに寄り添える管理栄養士になりたいです。」という言葉を目にする。それは最も重要な感覚だ。では、管理栄養士として真に「寄り添う」とは、どういうことなのか。私はときどき彼女の話をし、そして「寄り添う」という言葉に集約された「管理栄養士としてできるすべてのこと」は何か、具体的に考えてみてほしいと投げかける。私自身も答えを探している最中だが、こうして考えることのできる学生を社会へ送り出すことも、臨床現場を経験し、大学に戻った自分の、ひとつの使命だと思っている。

「祈り」とは、相手に心から寄り添い、人事を尽くした先に、自然と沸きあがる、幸せを願う気持ちなのかもしれない。私はこれからも、管理栄養士として、大学教員として、目の前の一人ひとりに対して最善を尽くし、祈りをもって寄り添い、支援し続けたい。

2026年度宗教委員を紹介します

新年度が始まりました。新入生、上級生のみなさん、広島女学院大学の建学の精神への理解を深め、現代社会のさまざまな出来事を学んでいきましょう。宗教委員会は「キリスト教の時間」、「木曜日チャペル」を始め、多彩な行事と活動を企画していきます。意見や感想など、どんなことでも私たち宗教委員、宗教センター職員に気軽にお寄せください。

大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生（日本キリスト教団牧師、国際英語学科）

宗教委員 Robert Dormer 先生（国際英語学科）

矢吹 文乃 先生（日本文化学科）

関戸 智大 先生（生活デザイン学科）

下岡 里英 先生（管理栄養学科）

李 東振 先生（児童教育学科）

宗教センター 加納 暢子 今井 妙

2026年度 前期チャペル表（4月～8月）

前期主題：「信じて一歩、未来へ進む。」（マタイによる福音書6章31節～34節）
 “Believe - and step into the future.”（Matthew 6:31-34）

※春季宗教強調週間の5月20日の特別講演会のみ砂本記念講堂での開催になりますので、ご注意ください。
 ※状況に応じて変更になる場合があります。変更については随時ポータルサイトでお知らせします。

月	日	火曜日「キリスト教の時間」 13:00～13:45 ゲーンズチャペル	司会	木曜日チャペル 12:30～12:50 ゲーンズチャペル
4				9 パイプオルガンコンサート 大学オルガニスト 玉理 照子 先生
	14	「賛美歌を歌おう（賛美歌のお話と歌唱指導）」 ★聖歌隊 大学オルガニスト、広島女学院同窓生、日本キリスト教団讃美歌委員 玉理 照子 先生	玉理	16 【学生活動報告】 管理栄養学科 海外フィールドワーク報告
	21	ゲーンズ記念礼拝 ※ゲーンズデー コリントの信徒への手紙一 3章6～9節 学長 渡部 佳美 先生	粟津原	23 生活デザイン学科 実験実習助手 露崎 舞 さん
	28	「カルト勧誘と高額献金」 柳本 伸良 先生（日本基督教団 華陽教会 牧師）	粟津原	30 【学生活動報告】 国際英語学科 カナダGOプログラム活動報告
5	5			7 大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生
	12	前期主題解説 「信じて一歩、未来へ進む。」（マタイによる福音書6章31節～34節） 大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生	粟津原	14 【学生活動報告】 生活デザイン学科
	19 (火)	キリスト教の時間 13:00～13:45 ゲーンズチャペル 『死すからこそ』ヨハネの手紙一 3章16節 講師 川越 厚 先生（在宅ホスピス研究所パリアン代表・森の診療所医師） 司会 大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生		
	20 (水)	特別講演会 13:00～14:30 砂本記念講堂 ★聖歌隊 『生存被爆者のスピリチュアルペイン』マルコによる福音書 14章 32～38節 講師 川越 厚 先生（在宅ホスピス研究所パリアン代表・森の診療所医師） 司会 大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生 ★講師を囲む懇談会 14:45～15:45（ゲーンズチャペルロビー）		
	21 (木)	木曜日チャペル 12:30～12:50 ゲーンズチャペル 【学生活動報告】日本文化学科「赤い鳥カフェ」		◆学内献血◆ 6月1日(月) 12:30～16:30 場所：ヒノハラホール前
26	日本赤十字社 広島県赤十字血液センター	下岡	28 児童教育学科 永島 恵美 先生	
6	2	プライド月間 高畑 朔さん/Eartist	李	4 管理栄養学科 実験実習助手 勝田 千尋 さん
	9	John Herbeart 先生(国際英語学科 教授)	粟津原	11 (プライド月間関連)
	16	清胤 祐子 先生 (浄土真宗本願寺派正覚寺坊守・安芸太田町教育長職務代行)	矢吹	18 【学生活動報告】 児童教育学科
	23	沖縄慰霊の日を祈念して 本学名誉教授 桐木 建始 先生 沖縄県人会「南風（ふえーかじ）」のみなさま	下岡	25 学生支援課 熊野 靖子 さん
	30	本学院同窓生からのメッセージ 小田 貴音さん(ボーカルユニット 万貴音)	関戸	2 キャリア支援・社会連携課 王野 里穂 さん
7	第60回原爆講座 -8.6の意味するもの-			
	7	ニロ とみゑ さん(市民団体「HOPE プロジェクト」代表)	李	9 国際英語学科 大崎 美佳 先生
	14	被爆証言 嘉屋重 順子さん (広島女学院同窓生、広島県原爆被害者団体協議会常任理事、自由美術協会会員)	矢吹	16 チャペルオルガニストによる オルガンコンサート
	21	土居 和子 さん(「ココロトモニ」代表、臨床心理士)	関戸	
	28	「前期を振り返って」 大学宗教委員長・宗教センター長 粟津原 淳 先生	粟津原	

※ 「キリスト教の時間」 奏楽：大学オルガニスト 玉理 照子先生